



## 小学生の性意識の実態調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋田, 和子, 伊東, 久見子, 芝木, 美沙子, 笹嶋, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00005407">https://doi.org/10.32150/00005407</a>

## 小学生の性意識の実態調査

秋田 和子      伊東 久見子      芝木 美沙子      笹嶋 由美

北海道教育大学教育学部旭川校 臨床医科学・看護学教室

### A Study on Sex Consciousness of Elementary School Children

Kazuko AKITA, Kumiko ITO, Misako SHIBAKI, Yumi SASAJIMA

Department of Clinical Science and Nursing, Asahikawa Campus

Hokkaido University of Education

Asahikawa 070-8621

#### I. はじめに

児童の健康問題は、社会の急激な変化とともに多様化・複雑化している。中でも、現代社会における科学技術の発達、産業構造の変化や経済の発展をもたらし、社会が家庭生活を変化させ、多様な価値観を生みだしている。また、物の豊かさとは相反して、「命の大切さ」「人の心の痛み」が分からないなど、人間性が失われてきている。

性教育の視点から見ると、社会的・文化的につくられた性差別をなくすことや、性的嫌がらせへの認識の向上、男女雇用差別の撤廃、性解放の風潮など、性に伴う考え方も近年急速に変化している。一方、マスメディアの発達と共に性情報の氾濫や性産業風潮によって、人間的なものの考え方や感じ方を失わせるなど、幼児・児童や生徒の性意識、性行動や人格の形成上に影響を与えている。また、身体的な発達や性的成熟の加速化現象ともあいまって、性に関する悩みを助長させ、非社会的行動や反社会的行動など問題行動の増加、性被害と加害の低年齢化、エイズに関する正しい知識など、教育の現場で積極的に取り組まなければならない多くの課題が山積みされている現

状である<sup>1)</sup>。

このような児童を取り巻く現状に対応するため、人間の性を人格の基本的部分とし生理的・心理的・社会的な側面から総合的にとらえ科学的な知識を与えると共に、子どもたちが自己の心身の発達や性的成熟や生命の大切さを理解し、また自分自身と他人を尊重する人間尊重・男女平等の精神に基づく正しい異性観を持ち望ましい行動選択ができるように、人格の完成・豊かな人間形成に資する性教育<sup>2)</sup>を行っていく必要があると考える。

また、このような現状の中で、平成9年12月に教育職員養成審議会の報告の中で、養護教諭が「保健」の授業を担当する教諭または講師となり得るよう制度的措置が掲示され、平成10年7月に教育職員免許法の改正が行われた。健康に関する現代的課題は、当然のことながら学校職員一体となって取り組むべきものであるが、とりわけ養護教諭のもつ専門的な知識や技能を教科の指導に生かし、問題の解決に一層の効果を上げることが期待されたものである<sup>3)</sup>。すなわち、健康教育推進の一役を担う養護教諭に期待される役割は大きい。

小学生の性教育や児童の性意識についての研究

は、富樫ら<sup>4)</sup>の性情報環境に関するものや、田川ら<sup>5)</sup>の性の悩みや親子関係に関するものなど様々であるが、高校生や大学生の性意識のように数は多くない。そこで私たちは、身体的・精神的に発達が著しく、個人差が大きいために不安や悩みを抱きやすい思春期を迎える小学校高学年の児童の性意識の実態を明らかにしたいと考え、調査を行った。

## II. 調査対象および方法

旭川市内の小学校4校に在籍する5・6年生(児童数415名)を対象とし、2002年11月から12月までの期間に調査を行った。

調査は、無記名自己記入式質問紙調査方法により、小学生の性に関する意識について行った。

統計解析は $\chi^2$ 検定を用いた。

## III. 結 果

### 1. 調査対象の概要

アンケートの回収数は402部であり、回収率は97.1%であった。男女別での回収率(回答数)をみると、男子97.4%(223名)、女子96.2%(179名)、学年別では、5年生94.7%(196名)、6年生97.6%(206名)であった。

### 2. 性情報について

#### 1) 性知識の認知度(表1)

性に関する用語15項目について、意味を知っていると答えた者が最も多かったものは、「精子」で81.1%(326名)であり、次いで「卵子」79.1%(318名)、「受精」76.6%(308名)であった。意味を知っていると答えた者が最も少なかったものは、「ワギナ」で18.2%(73名)であり、次いで「射

表1 性知識の認知度

名(%)

	全 体 n = 402			性 別						検定	学 年						検定
	知ってる	聞いた	知らない	男 子 n = 223			女 子 n = 179				5 年 n = 196			6 年 n = 206			
				知ってる	聞いた	知らない	知ってる	聞いた	知らない		知ってる	聞いた	知らない	知ってる	聞いた	知らない	
精子	326 (81.1)	66 (16.4)	7 (1.7)	183 (82.1)	37 (16.6)	3 (1.3)	143 (79.9)	29 (16.2)	4 (2.2)	157 (80.1)	36 (18.4)	2 (1.0)	169 (82.0)	30 (14.6)	5 (2.4)		
卵子	318 (79.1)	69 (17.2)	12 (3.0)	169 (75.8)	44 (19.7)	9 (4.0)	149 (83.2)	25 (14.0)	3 (1.7)	157 (80.1)	31 (15.8)	8 (4.1)	161 (78.2)	38 (18.4)	4 (1.9)		
受精	308 (76.6)	74 (18.4)	15 (3.7)	164 (73.5)	46 (20.6)	10 (4.5)	144 (80.4)	28 (15.6)	5 (2.8)	160 (81.6)	29 (14.8)	7 (3.6)	148 (71.8)	45 (21.8)	8 (3.9)		
セクハラ	291 (72.4)	94 (23.4)	14 (3.5)	149 (66.8)	63 (28.3)	8 (3.6)	142 (79.3)	31 (17.3)	6 (3.4)	132 (67.3)	56 (28.6)	7 (3.6)	159 (77.2)	38 (18.4)	7 (3.4)	*	
ペニス	258 (64.2)	74 (18.4)	65 (16.2)	166 (74.4)	30 (13.5)	24 (10.8)	92 (51.4)	44 (24.6)	41 (22.9)	122 (62.2)	32 (16.3)	40 (20.4)	136 (66.0)	42 (20.4)	25 (12.1)	***	
エイズ	195 (48.5)	92 (22.9)	107 (26.6)	97 (43.5)	52 (23.3)	69 (30.9)	98 (54.7)	40 (22.3)	38 (21.2)	67 (34.2)	38 (19.4)	87 (44.4)	128 (62.1)	54 (26.2)	20 (9.7)	***	
月経	174 (43.3)	58 (14.4)	153 (38.1)	41 (18.4)	42 (18.8)	127 (57.0)	133 (74.3)	16 (8.9)	26 (14.5)	63 (32.1)	28 (14.3)	97 (49.5)	111 (53.9)	30 (14.6)	56 (27.2)	***	
援助交際	148 (36.8)	109 (27.1)	134 (33.3)	54 (24.2)	69 (30.9)	92 (41.3)	94 (52.5)	40 (22.3)	42 (23.5)	55 (28.1)	44 (22.4)	93 (47.4)	93 (45.1)	65 (31.6)	41 (19.9)	***	
初経	133 (33.1)	70 (17.4)	178 (44.3)	39 (17.5)	44 (19.7)	125 (56.1)	94 (52.5)	26 (14.5)	53 (29.6)	44 (22.4)	32 (16.3)	111 (56.6)	89 (43.2)	38 (18.4)	67 (32.5)	***	
精通	107 (26.6)	103 (25.6)	174 (43.3)	53 (23.8)	50 (22.4)	108 (48.4)	54 (30.2)	53 (29.6)	66 (36.9)	32 (16.3)	40 (20.4)	116 (59.2)	75 (36.4)	63 (30.6)	58 (28.2)	***	
二次性徴	101 (25.1)	87 (21.6)	195 (48.5)	59 (26.5)	39 (17.5)	113 (50.7)	42 (23.5)	48 (26.8)	82 (45.8)	20 (10.2)	40 (20.4)	127 (64.8)	81 (39.3)	47 (22.8)	68 (33.0)	***	
射精	99 (24.6)	113 (28.1)	175 (43.5)	55 (24.7)	61 (27.4)	99 (44.4)	44 (24.6)	52 (29.1)	76 (42.5)	19 (9.7)	45 (23.0)	123 (62.8)	80 (38.8)	68 (33.0)	52 (25.2)	***	
ワギナ	73 (18.2)	58 (14.4)	249 (61.9)	37 (16.6)	31 (13.9)	140 (62.8)	36 (20.1)	27 (15.1)	109 (60.9)	25 (12.8)	22 (11.2)	139 (70.9)	48 (23.3)	36 (17.5)	110 (53.4)	***	

\* P<0.05 \*\* P<0.01 \*\*\* P<0.005

精」24.6% (99名), 「二次性徴」25.1% (101名)であった。

男女別では, 「月経」「援助交際」「初経」(共に  $P < 0.005$ ), 「セクハラ」「エイズ」「精通」(共に  $P < 0.05$ ) は女子に意味を知っている者が有意に多く, 「ペニス」は男子に意味を知っている者が有意に多かった ( $P < 0.005$ )。

学年別では, 「エイズ」「月経」「援助交際」「初経」「精通」「二次性徴」「射精」「ワгина」は6年生に意味を知っている者が有意に多かった (共に  $P < 0.005$ )。

「ストーカー」「セックス」については3校の295名に聞いた。

「ストーカー」の意味を知っている者は85.1% (251名), 名前を聞いたことがある者は12.2% (36名), 知らない者は2.7% (8名), 無回答はいなかった。男女別, 学年別ともに差はなかった。

「セックス」の意味を知っている者は53.6% (158名), 名前を聞いたことがある者は31.5% (93名), 知らない者は13.9% (41名), 無回答は1.0% (3名)であった。男女別, 学年別共に差はなかった。

## 2) 性知識の情報源 (表2)

性知識の情報源で最も多かったものは, 「担任」36.8% (148名)と最も多く, 次いで「友だち」36.3% (146名), 「養護教諭」31.1% (125名)の順であった。

男女別では, 男子は「担任」が40.8% (91名)と最も多く, 次いで「友だち」35.9% (80名), 「テレビ・ビデオ」29.1% (65名)の順で, 女子では「養護教諭」が52.0% (93名)と最も多く, 次いで「母」42.5% (76名), 「友だち」36.9% (66名)の順であった。「養護教諭」「母」「マンガ」「雑誌」(共に  $P < 0.005$ ) は男子より女子が有意に多く, 「父」は男子が有意に多かった ( $P < 0.005$ )。

学年別では, 5年生は「母」が33.2% (65名)と最も多く, 次いで「担任」「テレビ・ビデオ」とともに31.6% (62名)の順で, 6年生は「友だち」が42.2% (87名)と最も多く, 次いで「担任」41.7% (86名), 「養護教諭」31.1% (64名)という順で

表2 性情報源 名(%)

	全体 n=402	性別		検定	学年別		検定
		男子 n=223	女子 n=179		5年 n=196	6年 n=206	
担任	148 (36.8)	91 (40.8)	57 (31.8)		62 (31.6)	86 (41.7)	*
友だち	146 (36.3)	80 (35.9)	66 (36.9)		59 (30.1)	87 (42.2)	*
養護教諭	125 (31.1)	32 (14.3)	93 (52.0)	***	61 (31.1)	64 (31.1)	
テレビ・ビデオ	120 (29.9)	65 (29.1)	55 (30.7)		62 (31.6)	58 (28.2)	
母	118 (29.4)	42 (18.8)	76 (42.5)	***	65 (33.2)	53 (25.7)	
本	92 (22.9)	48 (21.5)	44 (24.6)		50 (25.5)	42 (20.4)	
マンガ	62 (15.4)	24 (10.8)	38 (21.2)	***	24 (12.2)	38 (18.4)	
先輩・年上の人	53 (13.2)	33 (14.8)	20 (11.2)		21 (10.7)	32 (15.5)	
雑誌	47 (11.7)	8 (3.6)	39 (21.8)	***	14 (7.1)	33 (16.0)	**
父	39 (9.7)	32 (14.3)	7 (3.9)	***	23 (11.7)	16 (7.8)	
インターネット	32 (8.0)	19 (8.5)	13 (7.3)		18 (9.2)	14 (6.8)	
兄弟姉妹	25 (6.2)	12 (5.4)	13 (7.3)		12 (6.1)	13 (6.3)	
その他	37 (9.2)	26 (11.7)	11 (6.1)		23 (11.7)	14 (6.8)	

\*  $P < 0.05$  \*\*  $P < 0.01$  \*\*\*  $P < 0.005$

あった。「雑誌」( $P < 0.01$ ), 「担任」「友だち」(共に  $P < 0.05$ ) は5年生より6年生が有意に多かった。

「その他」に関しては, 「勉強」が9名, 「保健の授業」6名, 「理科の授業」6名, 「教科書」4名と学校の授業に関して記入している者が多かった。

## 3. 心配事・悩み事について

### 1) 生活全般の悩み (表3)

心配事や悩み事では, 「勉強・進学のこと」が52.5% (211名)と最も多く, 次いで「お金」28.9% (116名), 「友だちとのこと」28.1% (113名)の順であった。

男女別では, 男子は「勉強・進学のこと」が46.6% (104名)と最も多く, 次いで「お金」27.4% (61名), 「自分の健康」25.1% (56名)の順で, 女子では「勉強・進学のこと」が59.8% (107名)

と最も多く、次いで「顔やスタイル」46.9% (84名)、「友だちとのこと」41.9% (75名)の順であった。「友だちとのこと」「性格のこと」「顔やスタイル」「異性とのつきあい」(共に $P < 0.005$ )、「勉強・進学のこと」( $P < 0.01$ )、「からだの変化」( $P < 0.05$ )は男子よりも女子が有意に多く、「心配事・悩み事はない」は男子が有意に多かった( $P < 0.005$ )。

学年別では、5年生は「勉強・進学のこと」が46.4% (91名)と最も多く、次いで「お金」28.1% (55名)、「自分の健康」25.0% (49名)の順で、6年生は「勉強・進学のこと」が58.3% (120名)と最も多く、次いで「友だちとのこと」32.5% (67名)、「お金」29.6% (61名)の順であった。「勉強・進学のこと」「友だちとのこと」は5年生よりも6年生が有意に多かった( $P < 0.05$ )。

## 2) 性に関する不安や悩み (表4)

男女とも同様の項目について聞いたが、「声変わり」「射精」は男子のみ、「胸のふくらみ」「月経」

は女子のみに聞いた。全体では、「体重」が最も多く、41.5% (167名)であり、次いで「身長」36.6% (147名)、「にきび」25.9% (104名)であった。

男女別では、男子は「身長」が32.3% (72名)と最も多く、次いで「体重」25.6% (57名)、「声変わり」19.7% (44名)の順で、女子は「体重」61.5% (110名)が最も多く、次いで「身長」41.9% (75名)、「にきび」34.1% (61名)の順であった。

「体重」「にきび」「友だちとの違い」「周りの人の目が気になる」「異性への気持ち」(共に $P < 0.005$ )、「身長」「異性とのつきあい」(共に $P < 0.05$ )は男子よりも女子が有意に多かった。

学年別では、5年生は「身長」35.7% (70名)が最も多く、次いで「体重」34.7% (68名)、「にきび」24.5% (48名)の順であり、6年生は「体重」48.1% (99名)が最も多く、次いで「身長」

表3 生活全般の悩み 名(%)

	全体 n=402	性別		検定	学年別		
		男子 n=223	女子 n=179		5年 n=196	6年 n=206	検定
勉強・進学	211 (52.5)	104 (46.6)	107 (59.8)	**	91 (46.4)	120 (58.3)	*
お金	116 (28.9)	61 (27.4)	55 (30.7)		55 (28.1)	61 (29.6)	
友だち	113 (28.1)	38 (17.0)	75 (41.9)	***	46 (23.5)	67 (32.5)	*
性格	103 (25.6)	36 (16.1)	67 (37.4)	***	48 (24.5)	55 (26.7)	
健康	99 (24.6)	56 (25.1)	43 (24.0)		49 (25.0)	50 (24.3)	
顔・スタイル	99 (24.6)	15 (6.7)	84 (46.9)	***	41 (20.9)	58 (28.2)	
からだの変化	57 (14.2)	23 (10.3)	34 (19.0)	*	24 (12.2)	33 (16.0)	
家族	51 (12.7)	23 (10.3)	28 (15.6)		24 (12.2)	27 (13.1)	
異性とのつきあい	49 (12.2)	13 (5.8)	36 (20.1)	***	19 (9.7)	30 (14.6)	
その他	10 (2.5)	4 (1.8)	6 (3.4)		3 (1.5)	7 (3.4)	
心配・悩みなし	78 (19.4)	55 (24.7)	23 (12.8)	***	41 (20.9)	37 (18.0)	

\*  $P < 0.05$  \*\*  $P < 0.01$  \*\*\*  $P < 0.005$

表4 性に関する不安や悩み 名(%)

	全体 n=402	性別		検定	学年別		検定
		男子 n=223	女子 n=179		5年 n=196	6年 n=206	
体重	167 (41.5)	57 (25.6)	110 (61.5)	***	68 (34.7)	99 (48.1)	**
身長	147 (36.6)	72 (32.3)	75 (41.9)	*	70 (35.7)	77 (37.4)	
にきび	104 (25.9)	43 (19.3)	61 (34.1)	***	48 (24.5)	56 (27.2)	
友だちとの違い	77 (19.2)	26 (11.7)	51 (28.5)	***	37 (18.9)	40 (19.4)	
周りの目	77 (19.2)	29 (13.0)	48 (26.8)	***	32 (16.3)	45 (21.8)	
発毛	43 (10.7)	19 (8.5)	24 (13.4)		14 (7.1)	29 (14.1)	*
異性の気持ち	41 (10.2)	14 (6.3)	27 (15.1)	***	13 (6.6)	28 (13.6)	*
異性とのつきあい	32 (8.0)	11 (4.9)	21 (11.7)	*	11 (5.6)	21 (10.2)	
その他	10 (2.5)	2 (0.9)	8 (4.5)	*	5 (2.6)	5 (2.4)	
心配・悩みなし	85 (21.1)	55 (24.7)	30 (16.8)		42 (21.4)	43 (20.9)	
声変わり	-	44 (19.7)	-		-	-	
射精	-	5 (2.2)	-		-	-	
胸のふくらみ	-	-	44 (24.6)		-	-	
月経	-	-	35 (19.6)		-	-	

\*  $P < 0.05$  \*\*  $P < 0.01$  \*\*\*  $P < 0.005$

37.4% (77名), 「にきび」27.2% (56名) の順であった。「体重」( $P < 0.01$ ), 「発毛」「異性への気持ち」(共に  $P < 0.05$ ) は5年生よりも6年生が有意に多かった。

女子の「月経」は5年生12.8% (11名), 6年生25.8% (24名) と6年生が有意に多かった ( $P < 0.05$ )。

### 3) 性に関する悩みの相談状況

こころやからだの悩みについて誰かに相談したことが「ある」者は32.8% (132名), 「ない」者は50.5% (203名), 「覚えていない」者は15.9% (64名), 「無回答」は0.7% (3名) であった。

男女別では, 「ある」が男子26.0% (58名) に対し女子41.3% (74名) と有意に多かった ( $P < 0.01$ )。

学年別で差はなかった。

性に関する悩みを相談したことがない者にその理由を聞いたところ, 全体では「自分で解決できるから」34.0% (69名) が最も多く, 次いで「相談するのが恥ずかしい」23.2% (47名), 「誰に相談していいのかわからない」19.2% (39名) の順であった。

男女別では, 男子は全体と同様の順で, 女子では「相談するのが恥ずかしい」が38.0% (30名) と最も多く, 次いで「誰に相談していいのかわからない」27.8% (22名), 「自分で解決できるから」21.5% (17名) の順であった。「相談するのが恥ずかしい」, 「誰に相談していいのかわからない」は女子に有意に多く ( $P < 0.005$ ,  $P < 0.05$ ), 「自分で解決できるから」は男子が有意に多かった ( $P < 0.01$ )。

学年別では, 5・6年生共に全体と同様の順であり, 差はなかった。

性に関する悩みを相談したことがある者に, 誰に相談したか聞いたところ, 全体では, 「母」が68.9% (91名) と最も多く, 次いで「友だち」43.2% (57名), 「父」18.9% (25名) の順であった (表5)。

男女別では, 男子は「母」が67.2% (39名) と

表5 性に関する悩みの相談相手 名(%)

	全体 n=132	性 別		学 年 別		
		男子 n=58	女子 n=74	5年 n=63	6年 n=69	検定
母	91 (68.9)	39 (67.2)	52 (70.3)	48 (76.2)	43 (62.3)	
友だち	57 (43.2)	22 (37.9)	35 (47.3)	17 (27.0)	40 (58.0)	***
父	25 (18.9)	22 (37.9)	3 (4.1)	14 (22.2)	11 (15.9)	***
兄弟姉妹	17 (12.9)	9 (15.5)	8 (10.8)	9 (14.3)	8 (11.6)	
担任	17 (12.9)	10 (17.2)	7 (9.5)	10 (15.9)	7 (10.1)	
養護教諭	13 (9.8)	2 (3.4)	11 (14.9)	3 (4.8)	10 (14.5)	
先輩・年上の人	8 (6.1)	3 (5.2)	5 (6.8)	2 (3.2)	6 (8.7)	
その他	2 (1.5)	0 (0.0)	2 (2.7)	1 (1.6)	1 (1.4)	

\*  $P < 0.05$  \*\*  $P < 0.01$  \*\*\*  $P < 0.005$

最も多く, 次いで「友だち」「父」が共に37.9% (22名) の順であり, 女子は「母」が70.3% (52名) と最も多く, 次いで「友だち」47.3% (35名), 「養護教諭」14.9% (11名) の順であった。「父」は女子より男子が有意に多かった ( $P < 0.005$ )。

学年別では, 5・6年生共に全体と同様の順であった。「友だち」は5年生よりも6年生が有意に多かった ( $P < 0.005$ )。

また, 性に関する悩みを相談して解決したかを聞いたところ, 全体では「解決した」61.4% (81名), 「解決しなかった」7.6% (10名), 「よくわからない」28.8% (38名), 「無回答」3.0% (4名) であった。

男女別, 学年別共に差はなかった。

## 4. 性に関して知りたいこと

### 1) 性に関して知りたい内容 (表6)

全体では, 「知りたいことはない」45.3% (182名) が最も多かった。知りたいことで最も多かったのは「生命の成り立ち」23.9% (96名) であり, 次いで「赤ちゃんが生まれるまで」22.6% (91名), 「恋愛」17.7% (71名) の順であった。

男女別でも, 「知りたいことはない」が最も多かった。次いで, 男子では「生命の成り立ち」28.3%

(63名), 「赤ちゃんが生まれるまで」19.3% (43名), 「男性のからだの仕組みや働き」15.7% (35名) の順で, 女子は「恋愛」27.4% (49名), 「赤ちゃんが生まれるまで」26.8% (48名), 「生命の成り立ち」18.4% (33名) の順であった。「恋愛」「異性の気持ち」「女性のからだの仕組みや働き」(共に  $P < 0.005$ ), 「異性とのおつきあい」「結婚」(共に  $P < 0.05$ ) は男子よりも女子が有意に多く, 「男性のからだの仕組みや働き」( $P < 0.005$ ), 「生命の成り立ち」( $P < 0.05$ ) は男子が有意に多かった。

学年別でも, 「知りたいことはない」が5・6年生共に最も多かった。次いで, 5年生は「生命の成り立ち」26.0% (51名), 「赤ちゃんが生まれるまで」24.0% (47名), 「恋愛」「男性のからだの仕組みや働き」共に11.2% (22名) の順で, 6年生では「恋愛」23.8% (49名), 「生命の成り立ち」21.8% (45名), 「赤ちゃんが生まれるまで」21.4% (44名) の順であった。「恋愛」「異性とのおつきあい」(共に  $P < 0.005$ ), 「異性の気持ち」( $P < 0.05$ ) は6年生が有意に多かった。

表6 性に関して知りたいこと 名(%)

	全体 n=402	性別		検定	学年別		検定
		男子 n=223	女子 n=179		5年 n=196	6年 n=206	
生命の成り立ち	96 (23.9)	63 (28.3)	33 (18.4)	*	51 (26.0)	45 (21.8)	
赤ちゃんが生まれるまで	91 (22.6)	43 (19.3)	48 (26.8)		47 (24.0)	44 (21.4)	
恋愛	71 (17.7)	22 (9.9)	49 (27.4)	***	22 (11.2)	49 (23.8)	***
異性とのおつきあい	48 (11.9)	20 (9.0)	28 (15.6)	*	11 (5.6)	37 (18.0)	***
異性の気持ち	45 (11.2)	14 (6.3)	31 (17.3)	***	14 (7.1)	31 (15.0)	*
男性のからだの仕組みや働き	41 (10.2)	35 (15.7)	6 (3.4)	***	22 (11.2)	19 (9.2)	
女性のからだの仕組みや働き	41 (10.2)	9 (4.0)	32 (17.9)	***	15 (7.7)	26 (12.6)	
結婚	41 (10.2)	15 (6.7)	26 (14.5)	*	15 (7.7)	26 (12.6)	
その他	6 (1.5)	4 (1.8)	2 (1.1)		2 (1.0)	4 (1.9)	
知りたいことなし	182 (45.3)	106 (47.5)	76 (42.5)		94 (48.0)	88 (42.7)	

\*  $P < 0.05$  \*\*  $P < 0.01$  \*\*\*  $P < 0.005$

## 2) 性に関する質問を最初に誰にするか

全体では「母」が27.1% (109名) と最も多く, 次いで「自分で調べる」22.4% (90名), 「友だち」18.4% (74名), 「父」「養護教諭」共に4.0% (16名), 「兄弟姉妹」2.7% (11名), 「担任」2.2% (9名), 「先輩・年上の人」1.5% (6名) の順であった。

男女別では, 男子では「自分で調べる」が29.1% (65名) と最も多く, 次いで「母」17.9% (40名), 「友だち」16.6% (37名) の順で, 女子では「母」が38.5% (69名) と最も多く, 次いで「友だち」20.7% (37名), 「自分で調べる」14.0% (25名) の順であった。男子では「父」が7.2% (16名), 「担任」4.0% (9名) であったが, 女子にはいなかった。「養護教諭」は男子2.2% (5名), 女子6.1% (11名) であった。

学年別では, 5年生は「母」が31.1% (61名) と最も多く, 次いで「自分で調べる」24.5% (48名), 「友だち」11.7% (23名) の順で, 6年生では「友だち」が24.8% (51名) と最も多く, 次いで「母」23.3% (48名), 「自分で調べる」20.4% (42名) の順であった。

## 5. 性意識について

### 1) 好きな異性について

全体では「いる」が47.3% (190名), 「いない」37.8% (152名), 「わからない」14.7% (59名) であった。

男女別では, 男子の「いる」41.3% (92名) に対し女子の「いる」54.7% (98名) であり, 女子が有意に多かった ( $P < 0.05$ )。

学年別では, 差はなかった。

交際状況について2校の211名に聞いたところ, 全体では「いる」が9.0% (19名), 「いない」83.9% (177名), 「わからない」6.6% (14名), 「無回答」0.5% (1名) であった。

男女別, 学年別共に差はなかった。

### 2) 性自認

自分の性に生まれてよかったかについて3校の

295名(男子159名,女子136名)に聞いたところ、全体では「思う」が70.8%(209名)、「思わない」4.4%(13名)、「わからない」24.4%(72名)、「無回答」0.3%(1名)であった。

男女別では、男子の「思う」81.1%(129名)に対し女子「思う」58.8%(80名)であり、男子が有意に多かった( $P < 0.005$ )。

学年別では、差はなかった。

## 6. 射精・月経について

### 1) 射 精

射精の有無について3校と1校の6年生男子192名(5年生79名,6年生113名)に聞いたところ、「ある」が11.5%(22名)、「ない」74.5%(143名)、「無回答」14.1%(27名)であった。学年別では、「ある」と回答した者は、5年生2.5%(2名)に対し6年生17.7%(20名)と6年生が有意に多かった( $P < 0.05$ )。

精通があった時期は、全体では「4年生」1名、「5年生」8名、「6年生」7名、「覚えていない」6名であった。

精通があった時、最初に誰に話したかについては、全体で「誰にも話していない」が9名と最も多く、次いで「友だち」3名、「父」1名の順であった。

精通前から射精を知っていたかについては、全体では「知っていた」が13名、「知らなかった」5名、「覚えていない」4名であった。

精通前から射精を知っていた者の知識の情報源は、「担任」が6名と最も多く、次いで「本」4名、「友だち」「養護教諭」「テレビ・ビデオ」「マンガ」共に3名の順であった。学年別では、5年生は「友だち」「テレビ・ビデオ」「父」「兄弟姉妹」が共に1名で、6年生は「担任」が6名と最も多く、次いで「本」4名、「養護教諭」「マンガ」共に3名の順であった。

精通があった時の気持ちをたずねたところ、「何も思わなかった」「別に普通」「自然な感じ」「びっくりした」「マジで」「最初はよくわからなかった」などの記述があった。

### 2) 月 経

月経の有無については、「ある」が32.4%(58名)、「ない」64.8%(116名)、「無回答」2.8%(5名)であった。学年別では、「ある」と回答した者は、5年生15.1%(13名)に対し6年生48.4%(45名)と6年生が有意に多かった( $P < 0.005$ )。

初経があった時期は、全体では「4年生」8名、「5年生」29名、「6年生」18名、「覚えていない」2名、「無回答」1名であった。

初経があった時、最初に誰に話したかについては、「母」が72.4%(42名)と最も多く、次いで「友だち」4名、「兄弟姉妹」3名、「誰にも話さない」2名の順であった。

初経前から月経を知っていたかについては、全体では「知っていた」が77.6%(45名)、「知らなかった」6名、「覚えていない」4名、「無回答」3名であった。

初経前から月経を知っていた者の知識の情報源は、「母」が66.7%(30名)と最も多く、次いで「養護教諭」35.6%(16名)、「友だち」「雑誌」共に24.4%(11名)の順であった。学年別では、5年生は「母」が9名と最も多く、次いで「本」3名、「養護教諭」「雑誌」共に2名の順で、6年生は「母」が21名と最も多く、次いで「養護教諭」14名、「友だち」11名の順であった。

初経があった時の気持ちをたずねたところ、「不安だった」「気持ち悪かった」「めんどくさい」「びっくりした」「誰にも言えなかった」「いちいちこうしなさいと言われるのがいや」と初経に対して否定的な記述が目立ったが、「なんとなく嬉しかった」「大人の女性になれて嬉しい」「大人に近づいてきたのだなと思った」など、初経に対して肯定的な回答記述をしている者もいた。「お母さんから話しを聞いていたから平気だった」と記述した者もいた。

## IV. 考 察

### 1. 性情報について

#### 1) 性知識の認知度

全体を通して、「ストーカー」「セクハラ」「セックス」といった「マスメディアでよく取り上げられる用語」「性行動に関する用語」は、それぞれ意味を知っている者が85.1%、72.4%、53.6%と認知度が高かった。しかし、「援助交際」は36.8%と低かった。これは援助交際が1998年に入る時と下火になり、マスメディアでも取り上げられることが少なくなったのに対し、「ストーカー」「セクハラ」は現在マスメディアによく取り上げられているため、認知度が高かったと考えられる。「子どもと性実態調査」<sup>6)</sup>でも、「ストーカー」を79.7%が知っているとは回答し、「セクハラ」も中学生の7割以上が知っているとは回答しており、同様の結果であった。

理科の授業で扱われる「受精」「精子」「卵子」を除けば、「二次性徴」「精通」「射精」「初経」「月経」「ワギナ」といった「からだに関する用語」は認知度が低かった。「子どもと性実態調査」<sup>6)</sup>でも同様の結果であったが、同調査ではこのことを、自分達のからだの変化について意外と知識が乏しいのに対して、性行動に関する言葉は非常によく知っているという「性知識のアンバランス」が子ども達にみられると分析している。

性情報の氾濫や性行動の低年齢化など現在多くの問題があり、性知識のアンバランスはさらに大きくなることが考えられる。二次性徴中の子ども達が、自分達のからだに関することを知らないことによって、不安や悩みが多くなったり、性差や個人差が認められなかったりと問題が生じることから、学校や家庭において正しい性知識を持ち、望ましい行動の選択ができるよう指導する必要がある。

#### 2) 性知識の情報源

性知識の情報源は、「担任」が全体で36.8%と最も多く、林ら<sup>7)</sup>の調査でも小学6年生の情報源

として「先生」が全体の48.2%と最も多く回答していた。本調査でもその他で、「勉強」「保健の授業」「理科の授業」と答えた者が多かったことから、子どもは教師から性に関する知識を最も多く得ており、学校の中での教師の指導の影響は大きく、教師が積極的に性教育に関わり正しい知識を与えることにより、子ども達が性を肯定的に捉えることができると思う。

男子が「父」「母」から情報を得たと答えた者はそれぞれ14.3%、18.8%と他の項目に比べ少なく、林ら<sup>7)</sup>の調査でも「両親」と回答した者が女子よりも少ないことから、男子が親と性に関する話をすることがほとんどないことがわかった。教師だけではなく親による家庭での性教育は重要であるが、性教育は難しいと思う親も多いと考えられるので、学校から家庭への何らかの働きかけが必要であると考えられる。

女子では「養護教諭」が52.0%と最も多く、次いで「母」42.5%であることから、女子は同性から性情報を多く得ていたが、男子では父は14.3%と少なかった。男子でも同性である父や男性教師からの正しい情報提供の場がさらにあることが望まれる。

全体的に「身近な人」から情報を得ている傾向があるが、「テレビ・ビデオ」「本」「マンガ」「雑誌」「インターネット」など、マスメディアから情報を得ている者も多く、特に「テレビ・ビデオ」が29.9%と多かった。富樫ら<sup>4)</sup>の調査でも、小学5・6年生のテレビ視聴時間は、3時間以上が6割を超えており、テレビからの影響も大きいことが考えられる。同調査で、テレビを見ていて性的場面は出てくるかでは「よくある・時々ある」と回答した者が25.8%、書籍・雑誌・漫画を読んでいる性的場面を見ることがあるかでは「よくある・時々ある」と回答した者が17.1%であった。このように、子ども達に身近なマスメディアには常に性的情報の影が見え隠れしている傾向がみられ、意識すると否とに関わらず、行動選択・態度決定・価値観形成に何らかの影響を与えるという特性を考えると、親や教師としては何らかの措置

を講ずる必要性がある<sup>4)</sup>。マスメディアの情報は氾濫しており、子ども達が必ずしも正しい情報を得ることができるとは限らないため、正しい情報選択を子ども達に指導していくことが必要である。

## 2. 心配事・悩み事について

### 1) 生活全般の不安・悩み

「勉強・進学」が52.5%と最も多く、田川ら<sup>5)</sup>の調査でも「勉強・進学」と回答した小学5・6年生は45.9%と多かった。中学校進学が近づいている子ども達の多くが悩んでおり、現代の学歴社会とも何らかの関連があると考えられる。

次いで多かったものが「お金」28.9%であり、ファッションブランドの低年齢化や子ども達の遊びにお金がかかるものが増えたことから、子ども達の生活の中でお金を使う機会が増えていることが考えられる。しかし、お金欲しさによる万引きや援助交際といった非行にもつながる可能性があるため、親や教師は配慮しなければならない。

「友だち」と回答した者は28.1%であり、男子17.0%、女子41.9%と女子に多く、「性格」と回答した者も男子16.1%に対し女子37.4%と女子に多く、これらは田川ら<sup>5)</sup>の調査でも同様である。この時期自我の発達に伴って、自分は人からどう思われているか、どういうつき合いをしたらよいかなど、友人関係について思い悩む時期であり、女子に多い傾向がある。友だち関係での悩みは、いじめや不登校につながる恐れもあるため、親や教師は子ども達の様子を常に見守る必要がある。

「顔やスタイル」についても男子6.7%に対し女子46.9%と女子に多かったが、田川ら<sup>5)</sup>の調査でも「身だしなみ」と回答した者が男子16.9%に対し女子38.5%と女子に多く同様の結果であった。「異性とのつきあい」に関しても男子5.8%に対し女子20.1%と女子に多く、田川ら<sup>5)</sup>の調査でも「異性」と回答した者が男子10.6%に対し女子20.3%と女子に多く同様の結果であった。性成熟に伴い異性への関心も急速に高まってくる時期であり、異性によく思われたい、つき合ってもらい

たいという思いも生じ、それまでにはほとんど気にしていなかった自分の容貌、髪型やスタイルなどにも悩むことがある。そして、女子の特徴として二次性徴の発現と共に身体の美や装身具に関心が強くなる傾向がある<sup>5)</sup>。

性に関する悩みである「からだの変化」14.2%は全体でも第7位であり、「異性とのつきあい」12.2%は第9位であった。子ども達にとって生活全般の悩みとしては性に関する悩みはあまり多くなかった。田川ら<sup>5)</sup>の調査でも「性」の悩みは第6位であり同様であった。しかし、これから二次性徴に向かう時期であるので、性に関する悩みが増えていくことが考えられる。急速な発育・発達に伴う不安や悩みを抱かせないように、自分の心やからだについて正しい知識と認識を形成できるような性教育が必要と考える。

### 2) 性に関する不安・悩み

全体では「体重」が41.5%と最も多く、男子25.6%に対し女子61.5%と女子が多かった。このことから特に女子によるダイエット志向がでてくるのが懸念されるが、思春期やせ症や無理なダイエットなどからくる月経停止などが新しい問題として浮上している<sup>8)</sup>ことから、成長期である小学5・6年生に無理なダイエットなどをおこなわないよう注意する必要がある。

「友だちとの違い」「周りの目」は全体で共に19.2%であったが女子に多かった。これは富樫ら<sup>4)</sup>の研究においても同様であった。このことから、二次性徴による自分のからだの変化や悩みの中には個人差があるという知識を与えるだけではなく、子ども達が実感として受け止められるような指導が必要であり、男女での悩みの違いなども配慮する必要がある。また、「体重」「発毛」「異性への気持ち」は6年生に多かったが、これは、成長に伴って性に関する悩みも増えるものと思われる。

男子のみ「声変り」「射精」について聞いたが、「声変り」に関しては「身長・体重」に次いで19.7%と多かったが、「射精」は2.2%であった。この時

期の男子は、射精や発毛よりも声変りについての自覚が強いと考えられる。

女子のみ「胸のふくらみ」「月経」について聞いたがそれぞれ24.6%、19.6%で胸のふくらみの方が多かった。「友だちとの違い」「周りの目」を気にする女子が多く、周りから見てわかるからだの変化である「胸のふくらみ」が悩みとなる女子がいることが考えられる。

### 3) 相談状況

学年差はなかったが、「相談したことがある」男子26.0%に対し女子41.3%と女子に多かった。性に関する悩みを相談する女子が多いのに対し、男子は半数以上の者が相談できずに自分の中にしまい込んでいる様子が見える。

相談しなかった理由としては、学年差は見られないが、「自分で解決できるから」男子41.9%、女子21.5%と男子が多かった。このことから男子が悩みを自分の中だけにとどめていることがわかる。また、「相談するのが恥ずかしい」「誰に相談していいのかわからない」が男子はともに13.7%に対し、女子38.0%、27.8%と女子に多かった。これは、女子は誰かに相談したい気持ちはあるが相談できない傾向にあるということがうかがえる。

悩みは、それを誰かに打ち明け相談することでしばしば発散され、情緒的にも安定するが、そのような機会がない場合時に情緒不安定がもたらされ、心身症や反抗、暴力、弱い者へのいじめが起こることもある。小学校の保健分野<sup>9)</sup>で、悩みや不安への対処方法などが取り上げられているが、対応としては悩みを打ち明けられる人や場を確保することであり、教師・保護者としてもその人になり得る準備が求められる。

相談相手は、学年差は見られなかったが、男女別では「父」が男子37.9%に対し女子4.1%と男子が多かった。親自身も同性の方が話しやすく、異性の場合、情報不足に加え機会の作り方や話しの仕方がわかりにくい状況がある<sup>5)</sup>と思われる。父親は仕事などのため子どもとの接触時間が短

く、家庭教育を母親にまかせる傾向にあるという現状があると思われる。しかし、男子はこれから起こる精通などの自分のからだの変化に関しては、異性である母親に相談しづらく一人で悩んでしまうことが考えられる<sup>10)</sup>。性教育はもちろん家庭教育全般においても父親の積極的な参加が早急に必要であり、子どもとのコミュニケーションを図ることが大切である。

男女ともに「友だち」がそれぞれ37.9%、47.3%と多かったが、「担任」12.9%、「養護教諭」9.8%と教師が相談相手としての役割が低かった。思春期のこの時期では、両親に相談しにくく、友だちでは解決できない悩みが出てくると考えられる。その場合に、身近な大人である教師が相談役として子どもの悩みを聞くことが望まれることから、悩みを相談しやすい環境を作り、子ども達との信頼関係を築くことが重要である。

## 3. 性に関して知りたいこと

### 1) 性に関することで知りたい内容

「知りたいことはない」が全体で45.3%と最も多かった。富樫ら<sup>4)</sup>の研究でも約6割が同様に回答していた。性に関することには多くの子どもが消極的であり、関心が低い傾向であった。まだ二次性徴が発現していない者も多いため、自分の心やからだに興味・関心のない傾向があったと考えられる。

知りたいこととしては、「生命の成り立ち」23.9%、「赤ちゃんが生まれるまで」22.6%であり、からだの変化が始まるこの時期の子ども達はやがて親になることを認識し、新しい生命創造への関心が高まってきていると考える。子ども達の興味があるこの時期に、生命の誕生などに関する性教育を行うことは有効と考えられる。

「恋愛」は男子9.9%、女子27.4%と女子に多く、5年生11.2%、6年生23.8%と6年生に多く、「異性の気持ち」に関しても同様であった。東京都幼稚園・小・中・心障性教育研究会（以下東京都性教育研究会と略す）<sup>10)</sup>の調査でも同様であった。「結婚」でも学年差はなかったが、男子6.7%に

対し女子14.5%で女子に多く、富樫ら<sup>4)</sup>の調査でも同様であった。異性に関心を持ち意識する気持ちが現れるのは、女子に早い傾向があった。

「異性とのつきあい」は男女差はなかったが5年生5.6%に対し6年生18.0%と6年生に多かった。富樫ら<sup>4)</sup>の調査でも「異性とのつき合い方」を知りたい者が5年生男子6.0%、6年生男子10.8%、5年生女子9.7%、6年生女子15.2%と6年生に多く、同様の傾向であった。中学生となっていく6年生では男女交際に興味を持っている者が多いので、このような実態をふまえ、小学校の保健で心の働きの基礎を学ばせ、学級指導や道徳において「異性とのつき合い方」の問題を取り上げて、ロールプレイなどによって異性の心や異性に対する思いやりの心に気づかせると共に、それらに基づく男女の関わり方のスキルを具体化して習得させ日常への転移を心がけさせることが大切である<sup>10)</sup>。

## 2) 性に関する質問を最初に誰にするか

男子では、「自分で調べる」が29.1%と最も多く、性に関して何らかの疑問が生じても誰にも質問しない者が多い傾向にあった。これは、本調査の相談状況と同様である。男子は女子に比べ、性に関する情報の必要感もこの時期少ないのだろうが、これから先中学生になり必要となった時、誤った情報を取り入れてしまう危険性が高い<sup>10)</sup>。そのため、性に関する質問ができる相手や確かな情報源の入手方法をもつことができるよう支援していく必要がある。

女子では、同性である母親に質問する傾向にあるが、「養護教諭」についても男子2.2%に対し女子6.1%と、同性である女子に多い傾向にあり、林ら<sup>7)</sup>の調査とも同様の結果であった。「父」と回答した女子はいなかったが、これは女子がこの頃から父親を異性として意識し始め父親との距離を置き始める時期であると考えられる。男子でも「父」と回答した者が他の項目と比べて低かったことから、ここでも父親の役割の低さがうかがえる。性に関する質問は、日常生活の会話の中から

出てくるものもあると考えられるため、日頃から家庭内でも性に関する話題も切り出せるような親子の対話や何でも話せる家庭の雰囲気が大切である<sup>5)</sup>。

全体でも「養護教諭」4.0%、「担任」2.2%であり、教師に質問するという者が少なかった。本調査の性知識の情報源として全体では「担任」が最も多かったにも関わらず教師に質問する者が少なかったことから、教師から受動的に情報を得ている傾向があると考えられる。従って、学校でも性に関する質問をしやすい雰囲気づくりが大切であり、教師とゆっくり話せる時間や場所を確保し、子ども達からの質問を受け止める教師の積極的な姿勢が望まれる。

## 4. 性意識について

### 1) 好きな異性の有無と交際状況

好きな異性が「いる」と答えた男子41.3%に対し女子は54.7%と女子に多かった。東京都性教育研究会の調査<sup>10)</sup>でも女子に多く、女子の方が身体の発育だけでなく、心の発達も早い傾向があった。

交際相手が「いる」と回答した者は、全体でも19名であった。好きな異性では約半数の者がいると答えたが、実際に交際とまではいっておらず、小学校5・6年生はちょうど異性に興味・関心を持ち始める時期であると考えられる。「子どもと性実態調査」<sup>6)</sup>で実際に男女交際をした経験があるまたは現在しているという中学生は、1年生20.4%、2年生34.2%、3年生36.0%であり、中学生の頃から男女交際を経験する者が学年を追って増加していく。本調査でも、19名が実際に交際しており、男女交際について関心を持っている者が6年生に多くなっていることから、中学生になっていく6年生の時期になんらかの指導を行うことが必要であると考えられる。

### 2) 性自認

「自分の性に生まれてよかったと思う」者は、男子81.1%、女子58.8%と男子に多く、一方「よ

かったと思わない」は男子0.6%、女子8.8%、「わからない」も男子18.2%、女子31.6%と女子に多かった。

このことは、「女子は生理があって面倒である」などの、身体的・生理的要因と「女性が家事をする」などの社会的性役割意識や性別分業のあり方、男尊女卑などの社会的考えが関係していると考えられる。しかし、1990年の調査<sup>11)</sup>では「反対ならよかった」が2割近くもいたことと比べると女子の否定的考えは減少しているものと思われる。これは、男女平等意識の浸透や男女共同参画社会への移行などと関連していると考えられる。女子の自己概念を肯定的に育てるために、身体的・生理的な性だけでなく、社会的・文化的な性についての学習内容・方法の工夫や改善が必要である<sup>10)</sup>。

## 5. 射精・月経について

射精・月経のある者はそれぞれ11.5%、32.4%であり、6年女子では約半数の者に月経があった。東京都性教育研究会<sup>10)</sup>の調査でも同様の結果であったが、精通・初経の時期は女子に早い傾向があった。

富樫ら<sup>4)</sup>は、二次性徴の発現について女子では早熟者で小学4年生頃からみられ、11歳から14歳の4年間に直線的に増え、中学2年生でほとんどの者にその発現が見られ、男子では早熟者で女子に1年おくれの小学5年生頃から、中学生期になると急速に増え始め、女子に1～2年遅れの中学3年生、高校1年生でその発現のピークを迎えるとしている。このように身体的・精神的な性成熟の早熟化が進み、実質的な変化が小学4・5年生から現れ始めていることから、からだの変化や二次性徴に関する教育の早期化について検討することも必要であると述べている。従って、平成14年度からの新学習指導要領の実施により「育ちゆく体とわたし」<sup>9)</sup>が4年生に移行されたことは有効であるが、4年生だけでなく子ども達の発達段階に応じた指導を行っていくことが望まれる。

また、平成14年度から新学習指導要領の実施により、保健の授業が3年生から行われるように

なったため、5年生で射精があつかわれていたが4年生へと移行となった。現在の5年生は移行期にあるためなんらかの形で射精は扱われていると考えられるが、5年生男子に認知度が低かったことから子ども達に浸透していないと考えられる。他教科とも関連をもたせ再度時間を設定することが必要であると考ええる。

精通・初経を最初に誰に話したかは、女子では「母」が72.4%と最も多かったのに対し、男子では「誰にも話さない」が40.9%と最も多かった。女子では「誰にも話さない」3.4%であり男子と大きな差があった。月経には手当てが必要であり、月経があった場合自分ひとりでは対処できないためであると考えられる。また、同性として母親から月経について本人に話されることも多いと考えられる。性に関する悩みを母親に相談する男子は半数以上であったが、精通があったことを最初に母親に話す者はいなかった。自分のからだの変化については異性である母親に話すことはないようであり、母親からも話す機会が女子よりも少ないことがうかがえる。

精通・初経という同じ二次性徴であり、大人へのからだの変化であり喜ばしいことであるのに、男子と女子では家庭での扱い方が大きく違うことがわかる。精通経験によって性的快感を知り、やがてマスターベーションを行うようになるが、マスターベーションが「悪いことではない」と考えている中学生が20%にすぎない<sup>10)</sup>ことから、家庭での現状を把握した小学生からの指導が必要である。

射精知識の情報源は「担任」6名、「友だち」「養護教諭」「テレビ・ビデオ」「マンガ」とともに3名であったが、月経知識の情報源は「母」30名、「養護教諭」16名、「友だち」「雑誌」とともに11名であり、男女で大きな違いが見られる。男子ではマスメディアから情報を得ている傾向があり、母親と回答する者はいなかったが、女子では身近な同性の人である母親や養護教諭から情報を得ていた。月経について母親から話してもらっていることが多く母親と娘との関係は密接であり、家庭内の雑

談の中でも伝えられているようであるが、男子はそうしたつながりがほとんどなく、射精などの自分のからだの変化については異性である母親に相談しづらくひとりで悩んでしまうことが考えられる<sup>10)</sup>。同性である「父」は1名であり、ここでも父親の役割不足が考えられるが、同じ経験をした同性の先輩である父親は男子にとって貴重な存在であるので、家庭内での性教育に父親の積極的な参加が望まれる。

## V. まとめ

旭川市内の小学校4校に在籍する5・6年生402名を対象とし、小学生の性意識について調査を行ったところ、次のような結果がえられた。

- 1) 性知識に関して「ストーカー」の意味を知っている者が85.1%と最も多く、「セクハラ」も72.4%と認知度が高く、「ワギナ」18.2%、「射精」24.6%と低かった。「性行動に関する用語」「マスメディアでよく聞く用語」が認知度が高いが、「からだに関する用語」の認知度は低い傾向であった。
- 2) 性に関する情報源では「担任」が36.8%と最も多く担任によって行われる授業から情報を得ている傾向があり、教師の指導の影響は大きいと考える。
- 3) 全体的に身近な人から情報を得ているが「テレビ・ビデオ」29.9%、「本」22.9%、「マンガ」15.4%、「雑誌」11.7%とマスメディアによって情報を得ている者も多かった。
- 4) 性に関する悩みでは「友だちとの違い」「周りの目」「異性への気持ち」「異性とのつきあい」と回答した者が女子に多く、思春期では自我が芽生え他人の存在が気になりだし友だちと比較して悩み、異性への関心も高まるがその傾向は女子に高かった。
- 5) 性の悩みの相談状況は、相談したことがあるのは、男子26.0%に対し女子41.3%と女子に多く、性の悩みを相談したことがない男子が半数以上みられ、男子が相談できずにいる状況がうかがえる。
- 6) 性の悩みの相談相手としては「母」68.9%と最も多かった。「父」は男子37.9%に対し女子4.1%と男子に多く、同性の親に相談する傾向があったが、母親に比べると父親への相談は少なかった。
- 7) 性の悩みの相談相手として「担任」12.9%、「養護教諭」9.8%であり、教師の役割は低かった。親と共に子ども達の身近な大人である教師が子ども達の相談役として果たす役割は大きいと考えられ、学校でも悩みを打ち明けやすい環境を整えることが大切である。
- 8) 性に関して質問する時、男子では自分で調べる者が29.1%と最も多かったが、情報は氾濫しており、誤った情報を取り入れてしまう危険性もあるため、性に関する質問ができる相手や確かな情報源の入手方法をもつことができるよう支援していく必要がある。
- 9) 性の質問相手として「父」4.0%、「養護教諭」4.0%、「担任」2.2%と、父親や教師の役割不足がわかった。性の情報源では担任が最も多かったことから、教師から受動的に情報を得ているものと考えられ、子ども達からの質問を受け止める教師の積極的姿勢が望まれる。
- 10) 好きな異性がいる男子41.3%に対し女子54.7%と女子に多く、身体の発育だけでなく、異性を意識し受け入れようとする心の発達も女子が早い傾向がある。
- 11) 性自認では「自分の性に生まれてよかった」と回答した男子81.1%に対し女子58.8%と男子に多く、「わからない」と回答した女子は31.6%と多い傾向であった。自己概念を肯定的に育てるために身体的生理的な性だけでなく、社会的文化的な性についての学習内容・方法の工夫、改善が望まれる。
- 12) 精通・月経があった時に話す相手は、女子では「母」72.4%と最も多かったが、男子では母親と回答した者はなく、「誰にも話さない」40.9%と最も多かった。精通に関して母親に話しづらいため、同性の父親が経験者として果た

す役割は大きく、父親の性教育への積極的な参加が望まれる。

- 13) 射精に関して家庭内で語られることが少ない傾向がみられ、射精・月経という同じ二次性徴であるのに男子と女子では家庭での扱い方が大きく違うことがうかがわれた。父親の家庭内での性教育担当者としての役割が重要であると考ええる。

以上のことから、児童の二次性徴の発現や抱える不安や悩みには個人差があり、個々の児童の状況に即した性教育を行うことが望まれる。これらことから、児童の実態を知り、児童が性教育に何を望んでいるのかを知り、発達年齢やニーズに応じた性教育を行っていくことが重要であると考ええる。

稿を終えるにあたり、調査にあたってご指導とご助言を賜りました北海道教育大学附属旭川小学校養護教諭安部奈生先生をはじめ、旭川市内の諸先生方および児童の皆様に心より感謝いたします。

## 文 献

- 1) 旭川市性教育研究会：平成14年度研究計画，第23回旭川市性教育研究大会要項，5-12，2002
- 2) 江口篤寿他：性の指導総合事典，ぎょうせい，14，1992
- 3) 養護教諭研修事業推進委員会：養護教諭の特質を生かした保健学習・保健指導の基本と実際，日本学校保健会，10，2001
- 4) 富樫健二・川島美奈：現代の性情報環境および発育発達に応じた性教育実施に向けて—小学生の性情報環境に関する調査—，三重大学教育学部研究紀要（教育科学）：48：59-71，1999
- 5) 田川真理子・宮崎麻理子他：二次性徴の発現に伴う性の悩みと親子関係，母性衛生：42：34-42，2001
- 6) 齋藤剛史：性教育，中学校教員の4割が「自信ない」相模原市教育研究所が「子どもと性実態調査」，内外教育：6-7，2001
- 7) 林猪都子・波川京子：児童と両親の性教育に関するニーズの相違，母性衛生：41：266-270，2000
- 8) 井上輝子ら：女性のデータブック，有斐閣，56，1999

9) 文部省：小学校学習指導要領解説 体育編，東山書房，26-28，1999

10) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会：2002年調査 児童・生徒の性，学校図書，8-30，2002

11) 柳瀬さち子：子どもの愛と性はいま—データでみるからだところの悩み—，児童心理：46：10-15，1992

(秋田 和子 旭川校大学院生)

(伊東久見子 旭川校大学生)

(芝木美沙子 旭川校助教授)

(笹嶋 由美 旭川校教授)